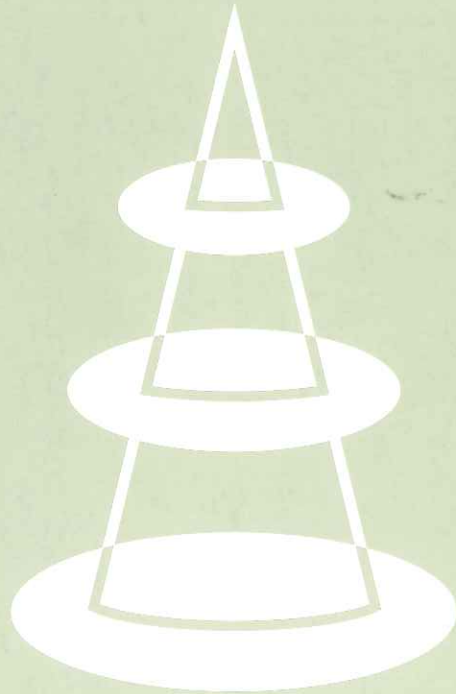


あしたの街は私がつくる



ごあいさつ



長崎市都市景観賞 表彰実行委員会委員長
伊藤 一長



長崎商工会議所会頭
野崎 元治

新しい世紀を迎え、初めての表彰となります2001長崎市都市景観賞並びに都市景観奨励賞を受賞された関係者の皆様に、心よりお祝いを申し上げます。

昭和62年にスタートいたしました本賞は、今回で第12回目を数えることになり、市民の皆様にも広く認知されているものと考えております。これもひとえに関係者の皆様及び市民の皆様のご支援の賜物でございます。

さて、近年は、国内外でさまざまな出来事があり、まさに激動の時代であると実感しております。

長崎市におきましても、出島復元に向けての公有地化が今年度中には100%に達し、新たな段階に入るとともに、今年は、全国でも珍しい県市共同によります(仮称)歴史文化博物館の建築設計に着手するなど、本市の歴史的な特性を活かした「オンリーワンのまちづくり」にも積極的に取り組んでおります。また、唐人屋敷についても、今年を顕在化元年と位置付け事業を推進してまいりますので、長崎の歴史に新たなページを開くものと考えております。

都市景観行政につきましては、昨年8月に「平和公園地区」を「東山手・南山手地区」及び「中島川・寺町地区」に続き、第3番目の景観形成地区として指定したところです。この地区は、被爆遺構や平和を祈念する施設を中心に被爆の実態を後世に伝え、恒久平和を訴えていく舞台として世界に誇れるまちづくりを図る重要な地区と位置付け、住民の皆様と協議をいたしながら、ご理解をいただき指定することが出来ました。

まちづくりは、市民の皆様のご参加とご協力を抜きにして進めることはできず、この激動の時代だからこそ、自立したまちづくりを目指すことが大切だと考えております。

今回の受賞作品は、歴史的文化遺産の継承と、新しい長崎の魅力ある空間の創出という、まさに長崎ならではのまちづくりの基本となるような作品ではないかと思えます。そういう意味で、本賞が広く市民の皆様親しまれることは、都市景観に対する意識の向上を図るうえで、重要な役割を果たすものであると期待している次第です。

最後に、ご応募していただきました多くの市民の皆様、また、ご尽力いただきました選考委員の皆様、深く感謝申し上げますとともに、今後とも長崎のまちづくりにご協力いただきますようお願いを申し上げます。挨拶といたします。

2001長崎市都市景観賞並びに都市景観奨励賞を受賞されました皆様に心よりお祝い申し上げます。

この賞は、1987年「長崎市都市景観建築賞」として、長崎らしい街づくりを進めていくことを目的に発足しました。以来、長崎の歴史的背景と地理的特色を活かし、周囲と調和した建築物や優れた都市景観を形成している街並みなどに贈られてきました。

その対象は、市民の景観形成に対する関心の高まりとともに、さまざまなテーマでの建築物・工作物等の作品が取りあげられるようになり、都市景観賞の概念も広がりを見せております。

特に、今回、本賞は12回目を迎えましたが、隔年選考となった平成12年度以降はじめての表彰となりました。

その間、「都市景観の日」、「ながさきみなまつり」での受賞作品写真のパネル展示などにより、これまで以上に数多くの受賞作品が広く市民の皆様にも再認識されるようになりました。

長崎は、古来異国との交流で培われた独特の「歴史」と「文化」、豊かな海に囲まれた「地形」といった個性を持ち合わせておりますが、近年、常盤出島・元船地区周辺の整備が進み、長崎の顔である港の景観が大きく変化しております。また、昨年は「新県立美術館」や「歴史文化博物館(仮称)」の建設が決定され具体的な計画案が示されるなど、新しい長崎の街づくりが進んでおります。

このような中、本事業は都市景観のみならず長崎の歴史・観光資源あるいはこれまで培われた文化などとともに、長崎らしく調和のとれた街づくりを促進するものとして、これからますます重要な役割を担うものと考えます。

長崎市都市景観賞は市民の皆様から推薦された作品が受賞対象となることから、市民の皆様の景観に対する関心度の指針となるものです。今後とも、この賞が長崎の都市景観や街づくり全般に対する市民の皆様への関心をより一層喚起するとともに、受賞された作品やその関係者皆様も長崎の景観形成や街づくりの先導的役割を果たしていただきますようお願い申し上げます。

最後に、本事業の実施にあたってご協力いただきました関係各位並びにご多忙の中ご尽力いただきました選考委員の皆様へお礼を申し上げます。ご挨拶といたします。

選考を終えて



長崎市都市景観賞 選考委員会座長
宮川 密義

2001長崎市都市景観賞並びに都市景観賞奨励賞を受賞された関係者の皆様からお祝いを申し上げます。

今回は隔年表彰の最初の年であり、市民の皆様の関心がどの程度になるか気になっておりましたが、応募数は前回の実数を上回る268件に達し、年々増える傾向に変わりはありませんでした。

都市景観賞3件のうち、歴史のある部門の2件は、どちらも長崎らしいたずまいや情緒、郷愁を残すもので、長崎の歴史的文化遺産として末永く顕彰するに値するとの評価を致しました。また選考委員会では、長崎にはまだ多くの歴史的建築物が数多く存在しており、これからも積極的に顕彰してほしいとの意見、要望が多く出されました。

テーマ部門で都市景観賞に選ばれた「どんどん坂」は、歴史的にも由緒ある三角溝や石垣のある石畳の坂道で、地域の方々にも大変親しまれています。これからもより一層の清掃や保全に努めていただきたいという思いから「さかみち賞」のネーミングで南山手地区まちなみ保存会に受賞していただくことにしました。

テーマ部門ではこのほか、並木道や植え込み、坂道、公園、港、高台からの景色、夜景などバラエティに富んだ応募が見られました。これは第10回記念で実施した「発見わがまち自慢～よかとこ・よか風景」の印象が強かったためと思われるが、テーマ部門を中心に、緑、水辺、遊びの空間など“癒し系”が多くを占めたのも今回の特色でした。それは、「住みやすい街づくり」に対する市民の皆様の関心の高まりを示すものと思います。

大きな建物部門で都市景観賞奨励賞に選ばれた3件のうち「慰めの聖母カトリック城山教会」は、重厚ななかにも周囲の緑に調和した外観のほか、内部には透かしガラスで自然光を採り入れるなどの工夫が見られ、地域との調和も考慮しています。また「九州電力株式会社新地変電所」も変電所という硬いイメージから脱して、地域の景観にマッチさせようとする努力が感じられ、「長崎出島ワープ」は昼と夜の両面で長崎のウォーターフロントにふさわしいムードをかもし出しています。

ところで、大きな建物部門では最近の建築傾向を反映してか大型マンションの応募が多く、最近話題を集めた長崎駅前から出島に至る水辺の景観にかかる建物の応募も目立ちました。大型マンションからは受賞作は出ませんでした。裏手の公園を借景に取り込み、池や植え込みを配するなど自然を重視したデザインも見られ、これからの建設に示唆を与えるものとして注目されました。

小さな建物部門からは残念ながら受賞作は出ませんでした。和風に斬新なデザインを取り入れた民家や海辺の景観を意識した料亭、おとぎの国をイメージした洋館などがあり、方向性としては今後に期待を持たせました。

なお、今回の選考過程では、例えば歴史のある建物の保全、改修とそれに使用した素材やデザインの一部変更など、人の手が加えられたものをどう評価するかなどの課題が指摘されました。またテーマ部門で応募が多かった植え込みや風景などにも積極的に対応するためには、選考基準の見直しも必要ではないかとの意見が出されたことを付記しておきます。

いずれにしても、応募件数の増加と内容の多様化は本賞に対する市民の関心の高まりを示すものであり、本事業がますます重要性を増し、新しい時代にふさわしいまちづくりに寄与していくものと期待しております。

[選考委員会]

座長

宮川密義

長崎新聞社編集アドバイザー（マスコミ）

委員

芥 寛

社団法人長崎県建築士事務所協会長崎支部副支部長（建築）

井川惺亮

長崎大学教育学部教授（現代美術）

池田賢一

社団法人日本建築家協会九州支部長崎会（建築）

岡林隆敏

長崎大学工学部教授（土木工学）

城尾忠明

長崎商工会議部青年部推薦（経済）

津田礼子

活水女子短期大学助教授（環境デザイン）

津田桂子

わらべ文庫主宰（文学）

中村亜希子

ザ・ながさき編集員（マスコミ）

林田米松

長崎県グリーン事業協同組合理事長（造園）

伴丈正志

長崎総合科学大学助教授（建築）

北郷雅子

フラワーデザイナー（デザイン）

宮原和明

長崎総合科学大学教授（建築）

山崎加代子

グラフィックデザイナー（デザイン）

吉岡規子

有限会社サンモープ代表取締役（色彩）

吉原明俊

ながさきプレス代表取締役（マスコミ）



第12回
長崎市都市景観賞
2001

『歴史のある部門』
小野原本店



〔選定理由〕

小野原本店は、大正末期に建設された建物であり、上海航路で長崎がはなやかであった頃に多くの人が歩いたと思われる、大波止から浜の町の間位置している。戦後生まれの私にとっては、昭和40年代にNHKで放送された新日本紀行で、この建物が紹介されたことが強く記憶に残っている。建築的に見ると、当時としては珍しく敷地の角がすみ切になっていて、その角が建物の中心的役割をなし、看板もこの位置にある。その屋根のかけ方は、非常に困難であったと思われるが、工夫のあとが見られる。軒の線は、三つの辺が一直線に統一されており、すっきりとした建物になっていて、それは、決してまわりを威圧しないで自然体で建っている。築町がビル化していくなかで、当時の長崎を思い出させてくれる、印象深い建物である。ただ一つ気になることといえば、建物の前面に置かれている自動販売機である。これも時代の流れかと思いはしたもののやはり残念な気がする。(池田 賢一)

所在地：築町3番23号
用途：店舗
構造：木造
階数：地上2階
建築年：昭和元年

■所有者■
株式会社小野原本店 代表取締役社長 小野原 善一
長崎市築町3番23号



『歴史のある部門』
長崎大学経済学部 瓊林会館



〔選定理由〕

大正9年に造られた建物で、昭和17年から大東亜研究所、21年からは産業経営研究所として使われていた。教授や学生のためだけでなく、かつては市民のための夜学講習会が開かれ、今は近隣住民の散歩道を彩る景観として、地域にも大いに貢献している。昭和45年に取り壊し予定となった際には、瓊林会有志が多額の寄付を行い、改修して2年後に瓊林会館として息を吹き返した。まさに連綿と続く長崎大学経済学部の歴史と誇りを象徴している。キャンパス内には石畳が残り、植栽も素晴らしい。特に桜の季節には多様な種類が咲き誇り、赤レンガに映えて見事である。茶髪の学生に古いものの価値と先輩方の努力を伝えるためのも、都市景観賞を受けるにふさわしい建築物である。(吉原 明俊)

※「瓊林会」というのは長崎大学経済学部(旧:長崎高商)の同窓会の名称である。

所在地:片淵4丁目2番1号
用途:会議室ほか
構造:レンガ造
階数:地上2階
建築年:大正9年

■所有者(所属)■
長崎大学経済学部
長崎市片淵4丁目2番1号



【テーマ部門：さかみち賞】
どんどん坂



【選定理由】

南山手外国人居留地は、鍋冠山の高燥な西斜面に造成されたために、居留地を一周する道路と、これらをつなぐ縦道が何本か造られた。一周する道路は早くから改修されたが、これらの縦道は、外国人居留地時代のままの姿で現在まで保存されてきた。この中でも、特に旧南山手外国人居留地の南端にある「どんどん坂」は、マリア園、高木邸等幾つかの当時の洋館と共に、南国長崎の外国人居留地の風情を最も良く残している。「どんどん坂」は、真っ直ぐに延びる勾配のある長い坂で、緑に囲まれた石畳と石造りの側溝がある。長崎の旧外国人居留地のなかで、最も景観に優れた石畳の坂道である。歴史的景観を配慮した保存活動を地元住民が行い、現在まで残されてきた。悠久の時間がじっくりと景観を造りだした長崎市を代表する坂道である。(岡林 隆敏)

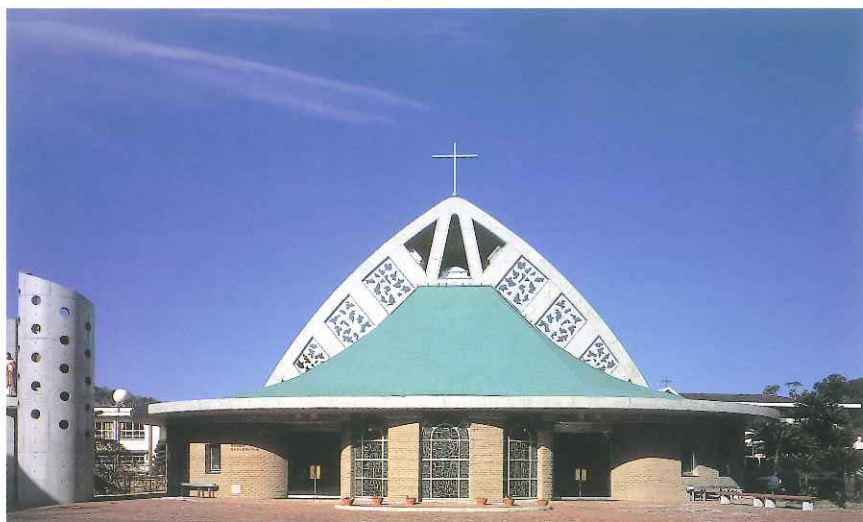
所在地：南山手町
延長：約117m
幅員：1.7m
施工時期：明治10年以降

■代表者■
南山手地区まちなみ保存会



第12回
長崎市都市景観賞 奨励賞
2001

「大きな建物部門」 慰めの聖母カトリック城山教会



【選定理由】

楠、椎などの大木が城山の台地にある学園キャンパスを包みこんでいる。その小さな森と台地は、外に向かっては周囲の街並みを潤し、内には都市の喧騒と干渉し静かなキャンパス空間をつくる。通りから楠の大木のこもれ日を受けながら学園への坂道を少し登りつめると、重厚な教会の緑錆屋根が見えてくる。キャンパスの中心に建つ教会は、聖母が子供達をそっと包み込むイメージと重なる。教会のエントランスに聖水盤がある。生徒達の手が聖水にふれると水の波面が天井で揺ぐ。聖堂内に入ると祭壇とレリーフ・コンクリート打放し壁面が見事なまでに昇華し、大空間をつくりだしている。トップライトからやわらかい自然光を取込み、採光抽象画ガラスからの紋様が打放しコンクリート面に映り込み、左右側方のステンドグラスからの光も多様かつ幻想的で響きあう色と光の空間をつくる。聖堂内の音響もすばらしい。ふと室内アンサンブル演奏を聞きたくなるような衝動にかられる。とにかくこの建物は祈りの空間であり、キャンパス内のどの場所からも見え、あるときは強烈に、あるときはやさしく遠くの山なみと重なり、ここから巣立つ子供達の感受性や豊かな感性を育むことだろう。(宮原 和明)

所在地：若草町6番5号

用途：教会

構造：鉄筋コンクリート造

(一部鉄骨鉄筋コンクリート造)

階数：地上1階 地下1階

延べ面積：687.50㎡

高さ：17.9m

■所有者■

宗教法人聖アウグスチノ修道会 代表役員 マイケル・スタンリ

長崎市若草町6番5号

■設計者■

株式会社 I.C.D. 建築設計事務所 代表取締役 岡 秀世

東京都豊島区千早2丁目27番6号

■施工者■

株式会社藤木工務店福岡支店 支店長 城戸 隆秀

福岡市博多区博多駅南3丁目1番1号



第12回
長崎市都市景観賞 奨励賞
2001

【大きな建物部門】
九州電力株式会社新地変電所



【選定理由】

送られた高電圧を適切に減圧し消費者に給する変電所は、現代の都市生活には必須な施設であるが、様々な電線が複雑に交錯し、無彩色で無骨、禁欲的なイメージを与えてきた。しかしながら、長崎の重要な観光スポットである新地・湊公園に面する角地に、このイメージを一新する煉瓦張りの変電所が登場した。この建物は緑色の勾配屋根をもち、周囲の街並みのボリュームに対応した外観2階建て、色が微妙に変化している煉瓦壁面には、三つの白石がアクセントを示すアーチ状の小窓が上下2列でリズムカルに並んでいる。建物平面を見ると、二つの矩形が雁行し、アプローチの玄関階段は円弧状になっている。敷地内には植栽が施され、透けた緑色の鉄柵が歩道との境界を表している。この新地変電所は、施設そのものの単一的な機能を越えた表現と空間をもち、長崎の町にゆっくりなじむ景観を生み出している。地域に対する所有者や設計者の意図がうまく示された好例といえる。(伴丈 正志)

所在地：新地町89番2号

用途：電力供給用建築物（無人変電所）

構造：鉄筋コンクリート造

階数：地上2階

延べ面積：520.17㎡

高さ：12.55m

■所有者■

九州電力株式会社長崎支店 支店長 石中 富雄

長崎市城山町3番19号

■設計者■

西日本技術開発株式会社 代表取締役 武富 一三

福岡市中央区渡辺通1丁目1番1号

■施工者■

(株)上滝・松島建設工業(株)共同企業体

株式会社上滝 代表取締役 上滝 満

長崎市新地町5番17号

松島建設工業株式会社 代表取締役 福浦 善一

長崎市万才町1番1号



第12回
長崎市都市景観賞 奨励賞
2001

【大きな建物部門】
株式会社長崎出島ワーフ



【選定理由】

長崎のウォーターフロントにも、待望の商業施設ができた。海を借景した景観は利用客に提供される最高のメニューであると思うが、潮の香りをさせる店舗が増えてさらにムードを盛り上げている。外装の色彩は、基本色になっている「黄・黄赤」の色が、背景の海の色の為に彩度を高く見せられ、店舗の内装・POP広告展開は非常に難しかったと思われるが、力みのないエントランス部分の作りや七輪で焼く匂いや煙りの演出など、各々の店舗で楽しい工夫をしているところが面白い。ここは官庁サイドからの協力を仰ぎたいところだが、海際の舗装に使用されている御影石は明度が高く、夏は反射光が非常に激しく冬は冷たく感じさせる。しかし、この石の椅子も夜になると若者やカップルで満席で、格好のデートスポットのようだ。月夜の晩など光が水面に映り、夜空に浮かび上がるロマンティックな景観は、対岸からも息をのむほど美しく若者ならずとも感動的だ。この先に続く、常盤埋め立て地の工事の完成が待たれるものの、流れる生演奏の演出の中、ボードウォークの心地よい散歩道を長崎市民に与えた功績は大きく評価されるべきであろう。(吉岡 規子)

所在地：出島町1番1号
用途：飲食店・物販店
構造：木造（一部鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造）
階数：地上2階
延べ面積：2,270.39m²
高さ：14.8m

■所有者■
株式会社長崎出島ワーフ 代表取締役 川添 一巳
長崎市出島町1番1号

■設計者■
株式会社北山創造研究所 代表取締役 北山 孝雄
東京都港区西麻布1丁目9番7号

株式会社青木茂建築工房 代表取締役 青木 茂
福岡市中央区長浜1丁目2番6号天神スカイマンション206号

■施工者■
鹿島・西日本菱重興産建設共同企業体
鹿島建設株式会社 九州支店 常務取締役支店長 平田 光宏
福岡市博多区博多駅前3丁目12番10号
西日本菱重興産株式会社 代表取締役 山崎 義明
長崎市飽の浦町5番3号

長崎市都市景観賞受賞作品

第1回 (1987)

長崎市都市景観建築賞



活水女子大学・短期大学 音楽館・2号館 (東山手町)



カロムビル (浜町)



松翁軒 (魚の町)



フォーレ三原台 (三原町)



中華門 (新地町)

第2回 (1989)

長崎市都市景観建築賞



活水学院楠光寮 (小ヶ倉2丁目)



小ヶ倉公営住宅 (古道町)



雀茶屋から新大工までの電車通り・電気軌道中央柱



山里小学校 (橋口町)



シーボルト記念館 (鳴滝2丁目)

第3回 (1991)

長崎市都市景観賞



川口鯉甲店 (浜町)



シーボルト通り (新大工町)

長崎市都市景観賞奨励賞



泉写真館 (川口町)



月光スタジオ看板
「南蛮ボード」
(桜馬場1丁目)



長崎プリンスホテル・ポケットパーク (宝町)

第4回 (1992)

長崎市都市景観賞



海星修道院 海星学園図書館 (東山手町)

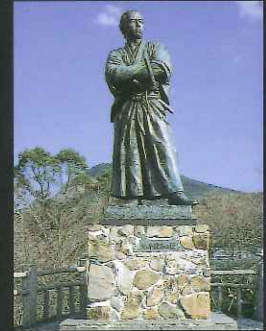


小ヶ倉水園 (上戸町:小ヶ倉浄水場内)



矢上小学校現川分校 (現川町)

長崎市都市景観賞奨励賞



坂本龍馬之像 (銅像)
(伊良林3丁目:風頭公園内)

第5回 (1993)

長崎市都市景観賞



金子建設株式会社本社ビル (松山町)



県営大橋団地・市営若葉団地 (大橋町、若葉町)



湊公園 (新地町)

長崎市都市景観賞奨励賞



復元唐船「飛帆」

第6回 (1994)

長崎市都市景観賞奨励賞



長崎県立総合体育館 (油木町)



長崎横尾郵便局 (横尾1丁目)

第7回 (1995)

長崎市都市景観賞

長崎市都市景観賞奨励賞



「大きな建物部門」
長崎電気ビル (城山町)



「歴史のある部門」
常岡歯科診療所 (油屋町)



「テーマ部門：歴史ロマン賞」
龍馬のふーつ (伊良林2丁目)



「小さな建物部門」
林兼石油株式会社浦上給油所 (松山町)

第8回 (1996)

長崎市都市景観賞

「小さな建物部門」
三宅脳神経外科医院
(若草町)



「歴史のある部門」
岩永梅寿軒
(諏訪町)



「テーマ部門：建築エコアップ賞」
賑橋パーキングセンター (栄町)

長崎市都市景観賞奨励賞



「大きな建物部門」
長崎女子高等学校記念体育館 (中小島2丁目)



「テーマ部門：四季プロムナード賞」
文教通り
(文教町、大橋町)

第9回 (1997)

長崎市都市景観賞



「大きな建物部門」
長崎市科学館 (油木町)



「歴史のある部門」
宝製綱株式会社 (小曾根町)



「歴史のある部門」
深堀の石塀群 (深堀地区)

長崎市都市景観賞奨励賞



「小さな建物部門」
高野眼科医院
(平野町)



「テーマ部門：ベイスайдシンボル賞」
三菱長崎造船所クレーン・ライトアップ (鮎の浦町)

第10回 (1998)

長崎市都市景観賞



「歴史のある部門」
福砂屋本店 (船大工町)



「歴史のある部門」
児童養護施設マリア園 (南山手町)

長崎市都市景観賞奨励賞



「小さな建物部門」
岩永邸 (小江原町)



「小さな建物部門」
白髭内科医院 (片淵)



「大きな建物部門」
ホテルモントレ長崎 (大浦町)



「テーマ部門：自然賞」
善長谷教会とそこからの景色 (大籬町)



「テーマ部門：四季プロムナード賞」
サントス通り (上野町、橋口町、岡町)

第11回 (1999)

長崎市都市景観賞



「小さな建物部門」
長崎平和記念教会
(富士見町)



「歴史のある部門」
料亭富貴樓
(上西山町)

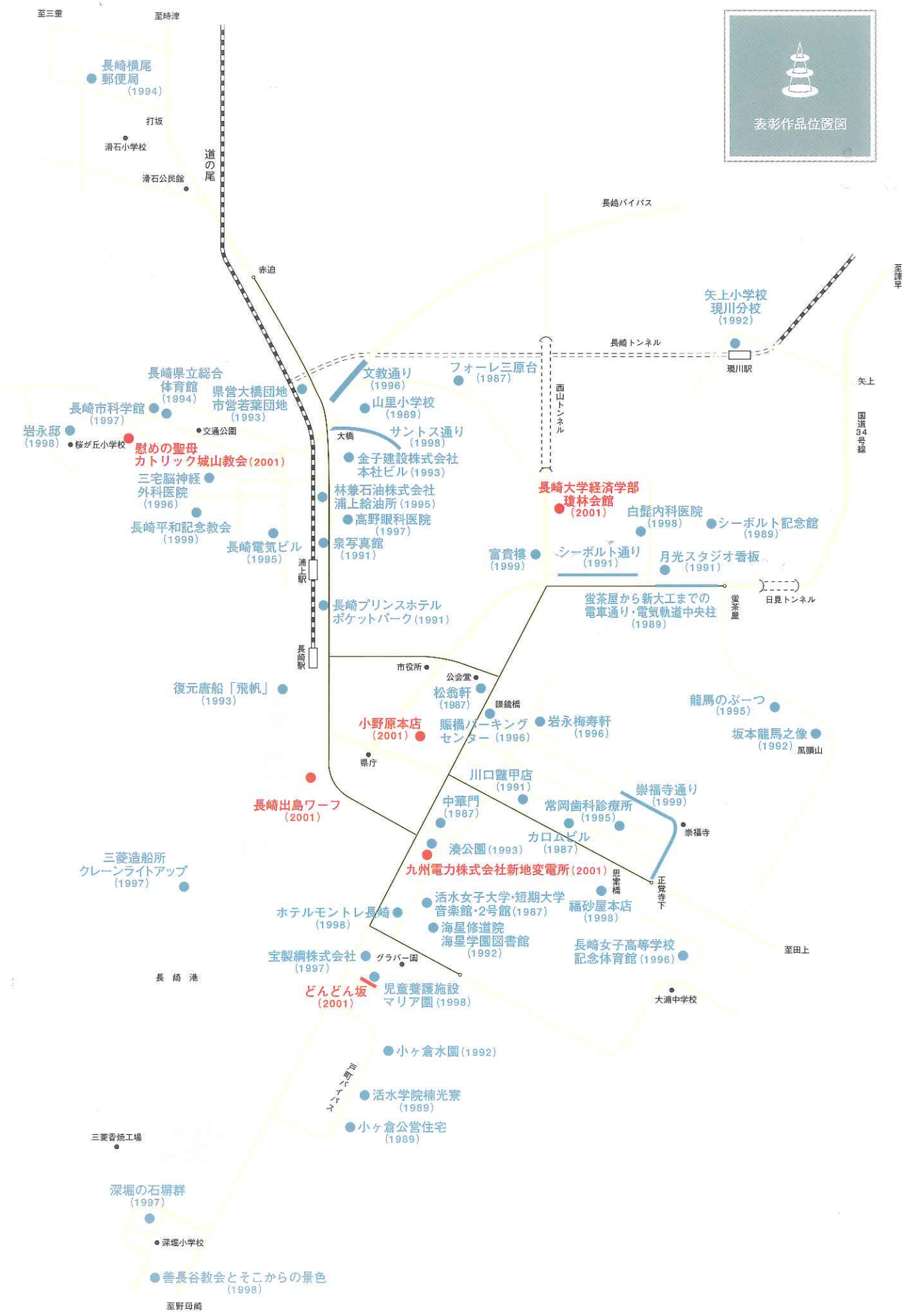


長崎市都市景観賞奨励賞



「テーマ部門：
プロムナード賞」
崇福寺通り
(鍛冶屋町、油屋町)







長崎市都市景観賞表彰実行委員会